

東部台地区

人口	男	8,122人	女	8,119人	計	16,241人	世帯数	6,811世帯
----	---	--------	---	--------	---	---------	-----	---------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

《事業概要【分野】と主な支出内容》

①南大通りにぎわい促進整備事業 【住民交流】

桜並木のライトアップをLED化及び延長し、市内外からの誘客を図る。

美しすぎる桜並木ライトアップ：延長 750m (LED 投光器具 115 基)
ビニール提灯 (LED 電球) 150 個、紅白ロープ (50m) 10 本

②ふれあい公園多目的化整備事業 【住民交流】

公園内に大型テントを設置し、災害時やイベント実施時等に活用する。

大型テント資材 (単管パイプ、コンパネ、シート等)
常設電源設置 (1 基)

《収支決算》

【収入 (円)】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	—	11,021,000	0	0	0	11,021,000
その他補助金	—	0	0	0	0	0
自己資金	—	419,584	1,057,274	934,213	896,996	3,308,067
計	—	11,440,584	1,057,274	934,213	896,996	14,329,067

【支出 (円)】

事業 No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	—	9,094,150	931,576	913,525	886,700	11,82,951
事業②	—	2,346,434	125,698	20,688	10,296	2,503,116
計	—	11,440,584	1,057,274	934,213	896,996	14,329,067

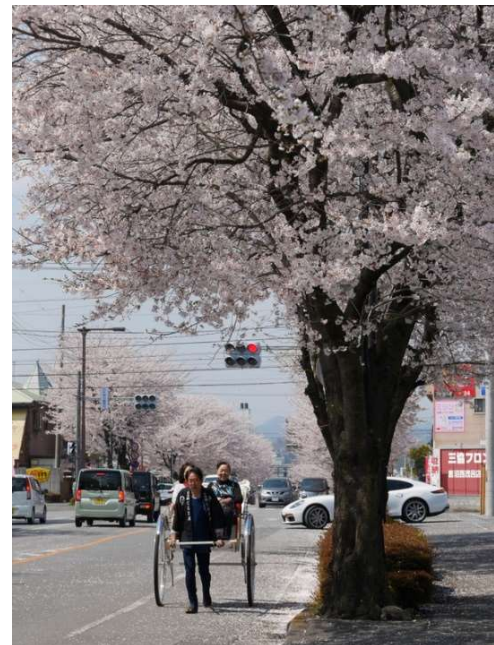
《事業への取り組みを振り返って》

1 南大通りにぎわい促進整備事業（住民交流）

南大通り（通称さつき大通り）といえば、やはり“美しすぎる桜並木”でしょう。東部台地区コミュニティ推進協議会では、この地域資源を最大限に活用し、桜の開花時期にあわせて、毎年「東部台地区ふれあいさくらまつり」を開催しています。



まつりポスター



人力車で桜を満喫

桜の開花期間中は、南大通りは地域住民や地区外からのたくさんの来訪者でにぎわいます。コミュニティ推進協議会では、夜間に桜並木のライトアップを実施しており、青空の下観る桜とはひと味違った、幻想的な夜桜を楽しむことができます。

このライトアップは、以前は地区内にある桜並木の延長約1,100メートルのところ、350メートルの限定的なライトアップでした。平成30年度に地域の夢実現事業により750メートル分のLEDライトアップ資材を追加配備し、地区内全区間のライトアップを実施することができました。また、あわせて古くなっていった提灯150個を更新し、シーズンごとに防犯街路灯に添架することで、年間とおして四季折々の情緒あふれる大通りを演出しています。





春の青空と桜並木。最高です。

2 ふれあい公園多目的化整備事業（住民交流）

栄町1丁目にある「ふれあい公園」は、東部台地区の主要な公園のひとつで、日頃から老若男女を問わず、地区住民の憩いの場として親しまれています。普段からのゲートボールやグラウンドゴルフ、子どもたちの遊び場としての利用のほか、ふれあいさくらまつりや地域のイベントの時には、メイン会場として活用されています。また、ふれあい公園は、広域避難所としても指定されています。



資材を駆使してテントの収容規模を拡張

イベント時は、雨天時でも実施できるよう園内に大型テントを設置していますが、当地区は人口が増加していることもあり、次第に既存のテントでは来場者の収容に限界が見え始めてきました。災害時を考えると、避難者の受け入れのための十分な広さが確保できないのではないかと懸念もありましたが、平成30年度の地域夢実現事業で、テント拡張のための単管パイプやコンパネなどの資材を配備し、既存のテントの収容規模を拡張することができました。

平常時は地域イベントでの活用、また災害などの非常時には避難所としての活用の際に、これまでより多くの収容数を確保できるようになりました。

3 事業のふりかえり

地域の夢実現事業の5年間をふりかえり、東部台地区コミュニティ推進協議会のみなさんに話を聞きました。

<南大通りにぎわい促進整備事業について>

- ・さつき大通りの桜並木は、東部台地区というより、鹿沼市のシンボルみたいなもの。地域で盛り上げていかないと。今回のライトアップ資材の配備で、以前と比べて東部台に訪れる人もかなり増えた。他の地区からも期待されているんじゃないかな。
- ・これからという時にコロナ禍になってしまってとても残念。人を集める事業はできなかったけど、自動車で桜並木を見に来る人がたくさんいた。何か可能性を感じた。もっと桜並木の認知度を上げたい。新しいPRの方法を考えないと。コロナ禍なので派手にはできないけど、「東部台で何かやってるな。なんか元気出るなあ。」なんて思ってくれるといいな。

<ふれあい公園多目的化整備事業について>

- ・大型テントの配備で、雨天でも催し物ができるようになったけど、コロナのおかげで各種イベントが中止となり、せっかく導入した大型テントも活用する機会があまりない。設営の機会がほとんどないので、テントを建てられる人がなかなか育たない。将来を考えて、みんなが設置できるよう、人材を育成しないといけないと思う。
- ・コロナで3年も事業ができていない。3年って大きい。交流が希薄になってしまう。自治会単位でも行事できないので、地域のつながりもなくなってしまふ。行事もすぐに中止じゃなくて、何かできること考えて、みんなでアイデア出しあってやっていかないとけないと思う。

<これからについて>

- ・東部台地区は、人口は増えているけど、ライフスタイルの多様化やプライバシー意識もあって、近所どうしのつきあいや助け合いが、昔と比べてかなり少なくなっていると思う。とくに災害時は、近所どうしの助け合いがとても大切。これらの事業をとおして、地域のすばらしさや、住みやすさを再認識してもらい、近所どうしが協力しあい、助け合えるような魅力ある地域づくりを目指して、これからも事業を続けていきたいですね。